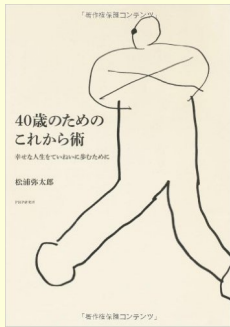


# やましたの「<sup>いっさつ</sup>今月の逸冊」

僕が本を読む理由は、考え方・価値観を広げるため。自分の知識や知恵なんてちっぽけなものだ。広げるためには、ある程度情報のインプットが必要だ。それには本が一番投資対効果が高い。たかが1500円程度の投資で、10数倍の価値を得ることがある。それはお金だけではなく、これからの生き方として、人生の糧となる。だから僕は今日も本を読む。



## 40歳のためのこれから術 幸せな人生をていねいに歩むために / 松浦 弥太郎 (著) ¥1,296-

-Amazonより内容紹介-

「暮らしの手帖」編集長が実践している、自分らしく生き続けるヒント、新たなスタートを切る工夫。1965年、東京生まれ。「暮らしの手帖」編集長、「COW BOOKS」代表。高校中退後、渡米。アメリカの書店文化に惹かれ、帰国後、オールドマガジン専門店「m&co.booksellers」を赤坂に開業。2000年、トラックによる移動書店をスタートさせ、02年「COW BOOKS」を開業。

### ◎尊敬できる先輩から学ぶ！

松浦さんの本を読むと「愛」を感じます（笑）大げさかも知れませんが、それだけ文章に気持ちがかもっているということです。“暮らしの手帖”という雑誌の編集長をやられているのが頷けます。この本は松浦さんの40歳からの物事の考え方、またこれから70歳までの生き方を書いた本です。僕自身はこれから40代になるので（現在36歳）、後悔しないよう先悔（せんかい）しておこうと思います！以下、簡単にご紹介します。

#### ▼「背伸びをせずに器を広げる」

ビジネス書を読むと“上へ、上へ”という風潮が多く、最初の頃は薬と一緒に効いて良いのですが、途中から疲れてきます・・・それでも足りず、もっと強い薬を飲むと、今度は変な方向に向かいますから気をつけなければいけません（笑）20～30代はいいのですが、40代になると“身の丈を知る”のが大事だと書かれています。ただ成長を否定しているのではなく、「無理をしていないか？装っていないか？」そんなことをしても何一ついいことはありません。人間の身の丈（身長）を変えることはできませんが、器を広げることはできますからね(^\_^)

#### ▼相手が求めていることをする

「40代からは、いただくから、与えるに舵を切りましょう」と書かれています。続けて「人に与えるには、その人が求めている“何か”を知らなければいけません」とあります。これは日々の生活でも言えますし、仕事の取引先や顧客、上司や部下との関係でも言えるでしょう。僕の中では“気遣い”と表現しています。この気遣いは、ちょっとした意識です。相手のことをちょっと気遣って考える意識があれば、結構できるものだと思います。まあ完璧ではありませんけどね^^;

松浦さんは、自分の中に哲学というか、自分の基本を作られています。それを若い時からやっていて、年をとって成長していく度にアップデートするイメージだと思います。他に出版されている本で、「100の基本」というのがあり、これが松浦さんの生きていく基本になっている考え方です。基本があると、動きづらそうですが、フリーで働いていると、ある程度のマイルールがあった方が色々判断しやすいこともあります。このような本を読んで、自分のマイルールと合うか？合わないか？その差異を見て、自分の基本を考えてみてはいかがでしょうか？

